

# 2014年3月 地域自然情報研究会



## 日本のブナ林はどこから来たの？ — 葉化石からよみがえる165万年前のブナ林の姿 —

伊藤 彩乃 氏 (千葉大学大学院 園芸学研究科 修士2年)

ブナは冷温帯の林を代表する樹木である。日本に固有な種で、フリル型に波打つ縁を持つ葉が特徴だ。このブナの葉の化石が、東京都狭山丘陵の古い時代の地層から見つかった。165万年もの長い間眠っていた化石が語ってくれたのは、日本のブナ林のルーツとなる森の姿だった。

見つかったブナの化石には、現在日本に分布するブナの葉に加えて、中国南部に分布するブナの仲間に似た葉が含まれていた。ともに見つかったほかの化石には、イチョウやフウといった日本から絶滅してしまった樹木の葉が含まれていた。これらの樹木は現在、中国南部の一部の地域だけに自生している。

このことから、日本のブナ林のルーツは、中国の暖かい地域にあると考えられる。おそらく、日本の気候が寒くなるにしたがって、現在の冷温帯の日本のブナ林が形成されていったのだろう。

### 開催日時

2014年3月22日(土) 14:00~16:00

### 参加費

500円(ただし、GCN会員は無料)

### お申し込み・お問い合わせ

お名前、ご所属、ご連絡先メールアドレス、会員種別をご記入の上、下記までご連絡下さい。

mail: [gcnken@gmail.com](mailto:gcnken@gmail.com)

NPO法人 地域自然情報ネットワーク 事務局  
(担当: 梶並)

### 会場案内

新宿区環境情報学習センター 2F 研修室  
(エコギャラリー新宿)



### 地域自然情報研究会とは？

当NPOにて2006年から、概ね月1回のペースで開催している研究会で、地生態学・景観生態学などにかかわる調査や研究、GIS情報整備や公開にかかわることなど、幅広い分野の方から話題を提供いただいています。意見や質問が飛び交う中から、新たな発想が生まれる場とするために、分野に限らず、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお本研究会では、皆様の話題提供も、随時、受け付けています。ご興味のある方は是非ともご連絡下さい。



NPO法人  
地域自然情報ネットワーク  
The Geoeological Conservation Network

NPO法人地域自然情報ネットワーク (GCN) は  
地生態学の視点から自然環境の保全を提案します

なお、GCNにつきましては、当会ホームページをご覧ください。  
<http://www.geo-eco.net/index.html>